

機関リポジトリと著作権

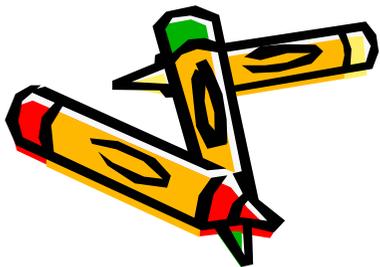
広島大学図書館
リポジトリ・アドバイザー

黒澤 節男



はじめに

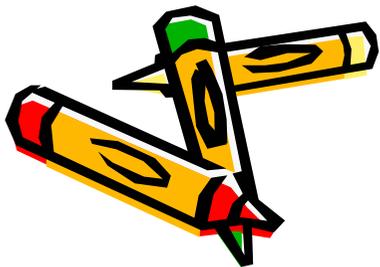
- 著作者として→研究者
- 利用者として→研究者・図書館
- 両者相まって学術・文化の発展に
寄与(著作権法の目的:法1条)



著作物

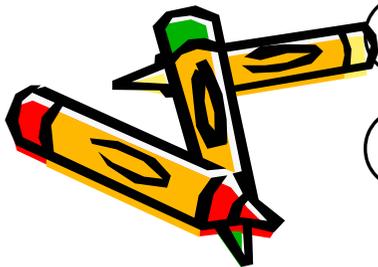
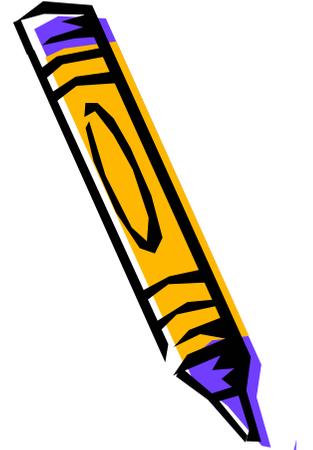
<定義> (法2条)

- ① 思想又は感情
- ② 創作的
- ③ 表現したもの
- ④ 文芸、学術、美術、音楽の範囲
= 文化的な所産



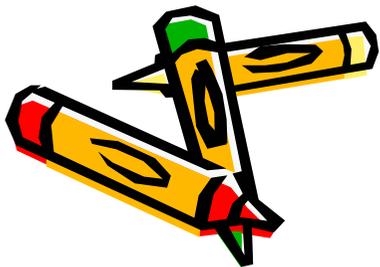
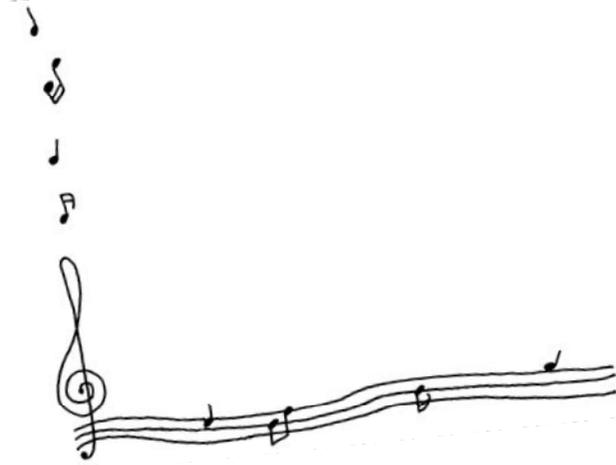
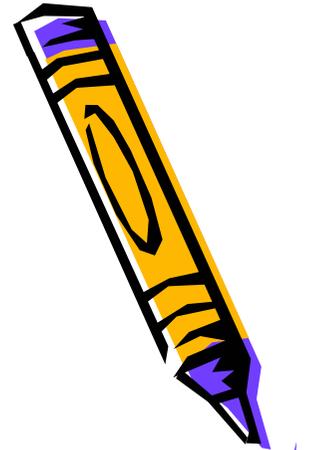
著作物の例示(法10条)

- ①言語の著作物
- ②音楽の著作物
- ③舞踊または無言劇の著作物
- ④美術の著作物
- ⑤建築の著作物
- ⑥地図または学術的な性質を有する図形の著作物
- ⑦映画の著作物
- ⑧写真の著作物
- ⑨プログラムの著作物



学術的著作物と文芸・音楽 著作物などとの違い

- 金銭的なこと
- 利用し合うか
- 引用を喜ぶか

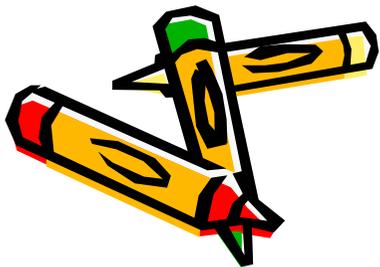
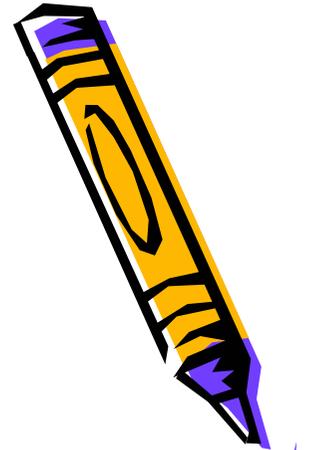


著 作 者

<定義> 著作物を創作する者
(法2条)

共同著作者

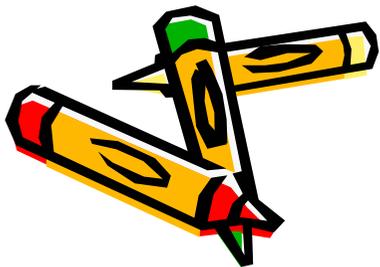
団体著作 (法15条)



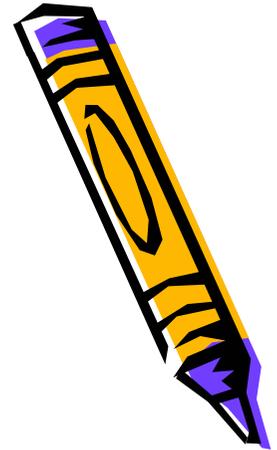
著作者の権利

権利の発生

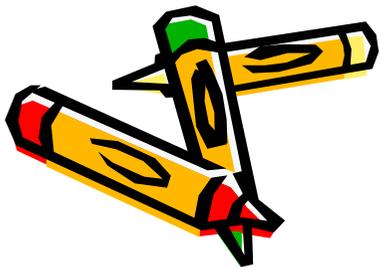
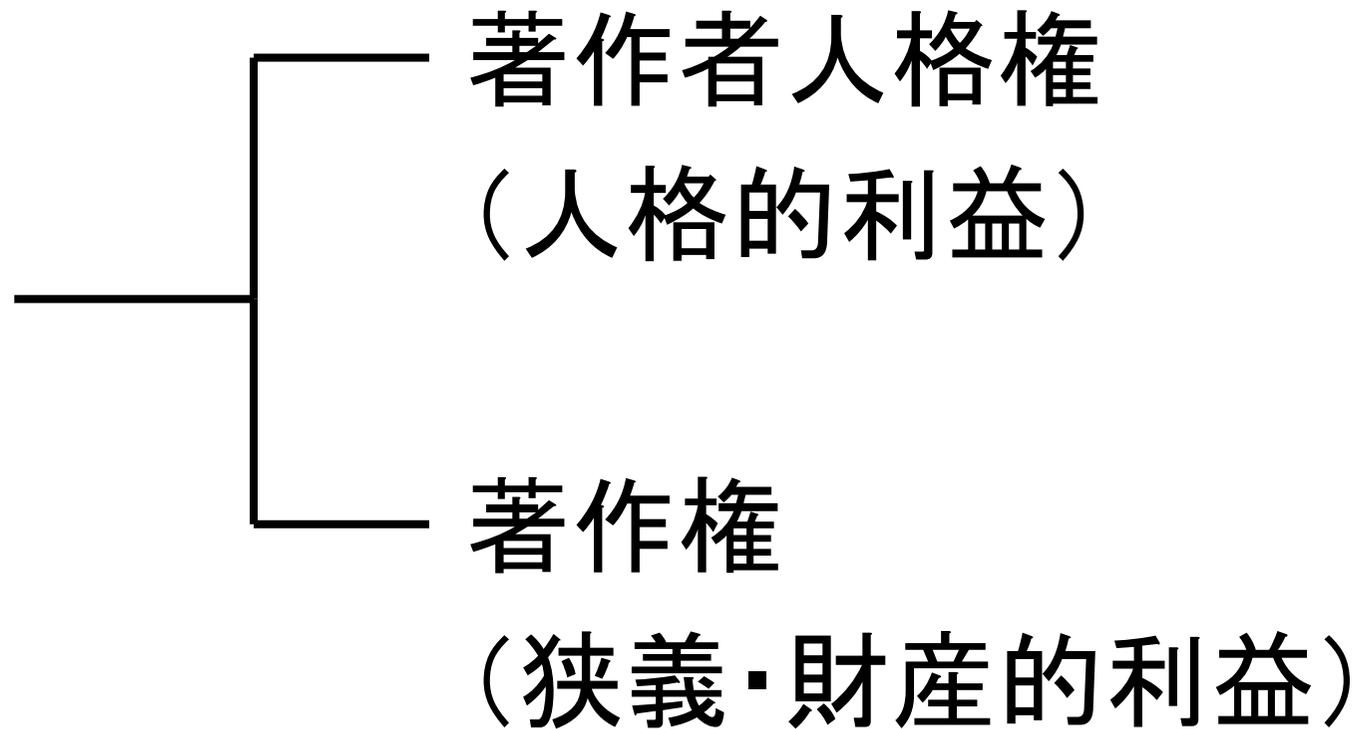
- 著作権の存続期間は、著作物の創作の時に始まる(法51条)
- 著作者は、著作者人格権と著作権(財産権としての)を享有(法17条)
- 享有には、いかなる方式の履行も要しない(法17条・無方式主義)



広義の著作権



著作権
(広義)

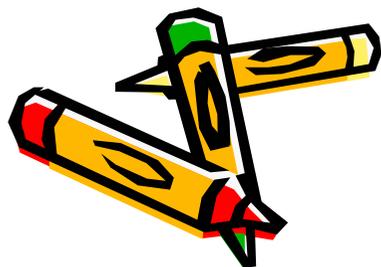
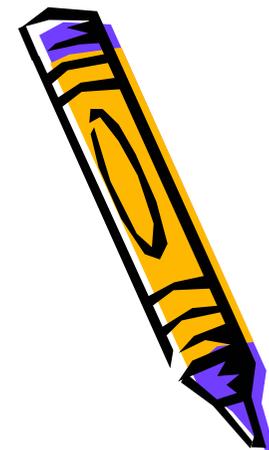


著作者人格權

公表權

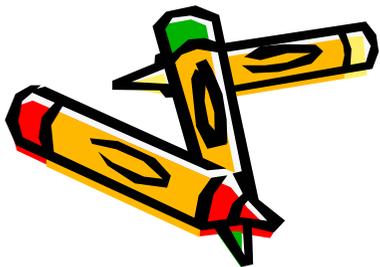
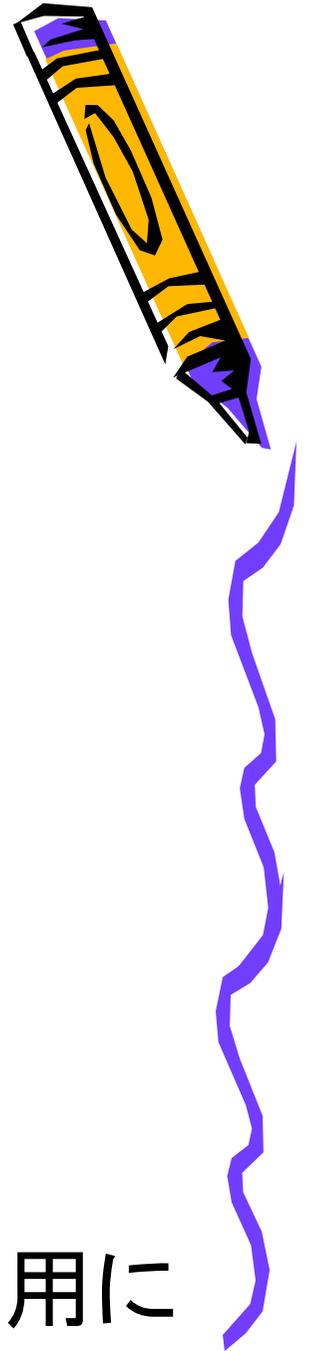
氏名表示權

同一性保持權



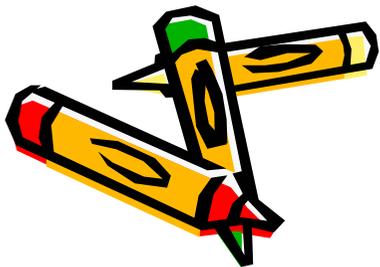
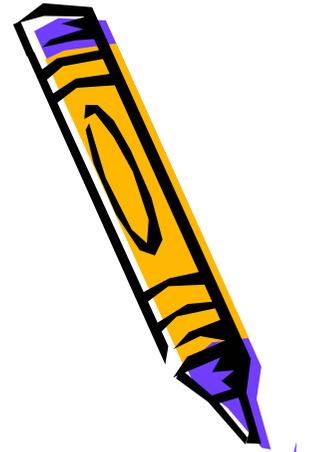
著作権
(財産権)

- 複製権
- 上演権、演奏権
- 上映権
- 公衆送信権
- 口述権
- 展示権
- 頒布権
- 譲渡権
- 貸与権
- 翻訳権、翻案権等
- 二次的著作権の利用に関する権利



著作権（財産権としての）

- 著作権は私権＝憲法が認めた財産権
- 排他的、独占的権利
- 他人が利用することについて許諾又は拒否する権利
- 権利の束
- 全部または一部の譲渡、相続が可能



他人の著作物を利用する手順

我が国で保護を受ける著作物か？

NO

↓ YES

著作権の保護期間内のものか？

NO

↓ YES

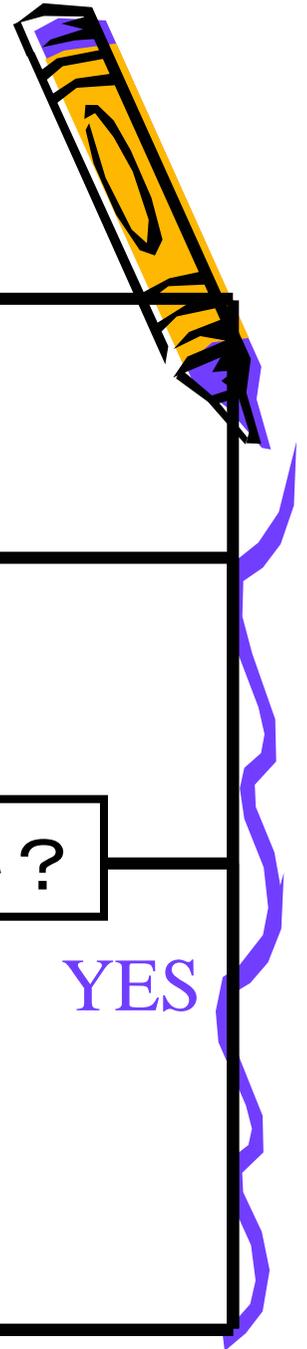
著作物を自由に利用できる場合に該当するか？

↓ NO

YES

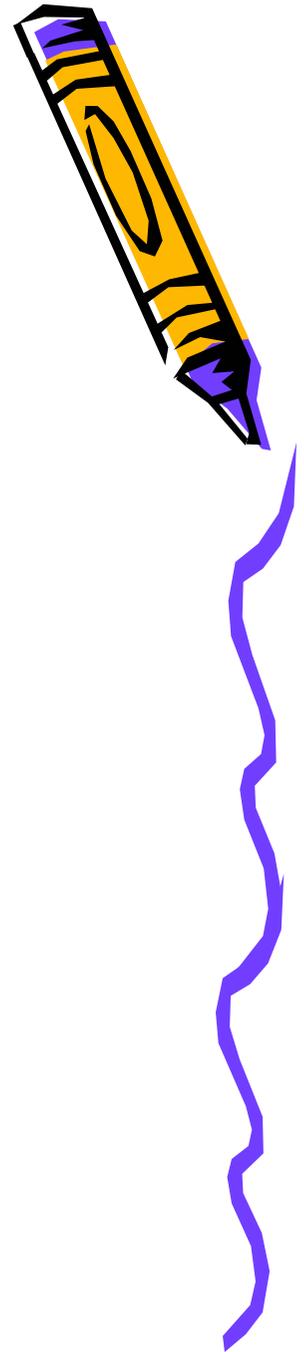
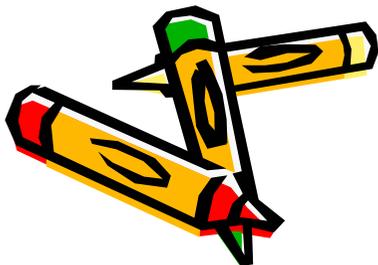
(著作権者等の許諾を得る必要あり)

利 用



無断で自由に利用して よいもの

- 権利の目的とならない著作物(法13条)
- 保護を受けない著作物(法6条)
- 保護期間の消滅した著作物
- 著作権の「制限規定」に該当する利用
(* 上記以外は許諾を得て利用すること)



保護期間

1. 保護期間の原則

- ① 期間は著作物の創作の時から始まる
- ② 著作者の死後50年を経過するまでの間存続

2. 無名・変名の著作物

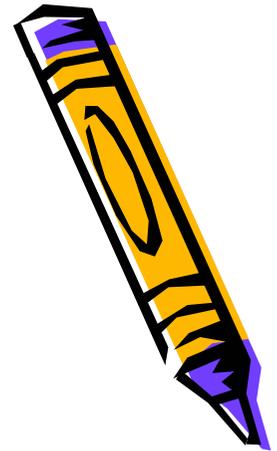
→ 著作物の公表後50年

3. 団体名義の著作物

→ 著作物の公表後50年

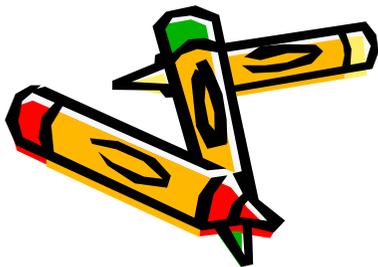
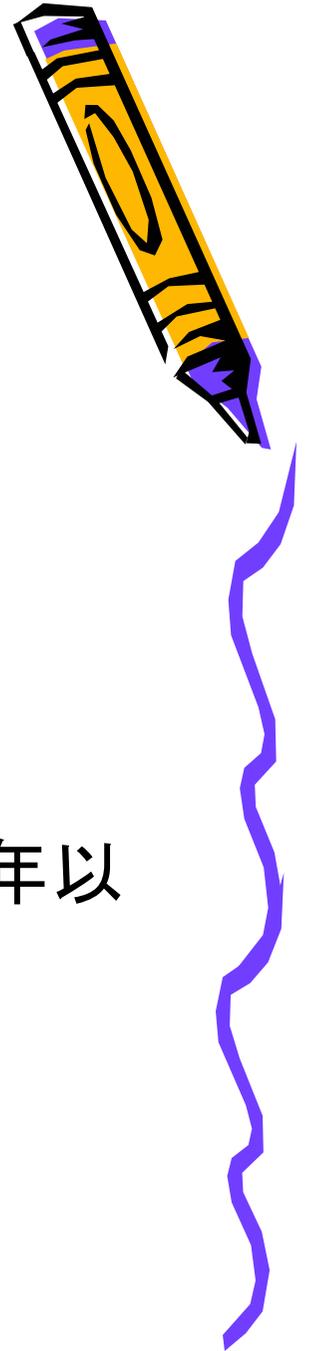
4. 映画の著作物

→ 著作物の公表後70年



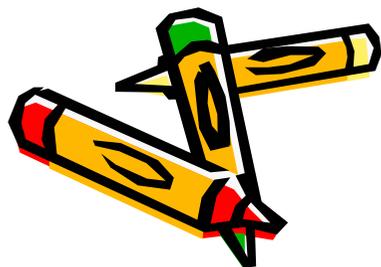
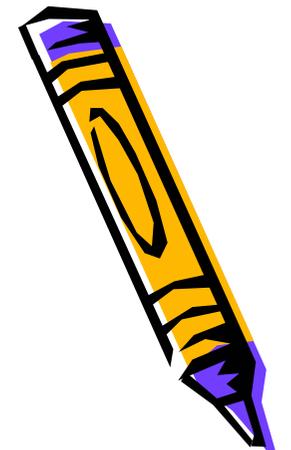
著作権の存続(本日現在) している著作物

- 実名: 1957年以降の死亡者
- 無名・変名: 1957年以降公表
- 団体名義: 1957年以降公表
- 写真:
 - a. 1957年以降創作
 - b. 1947年～1956年創作され、創作後10年以内に発行、かつ、その発行が1957以降
(文化庁HP「テキスト」より)



制限規定の例：引用（法32条）

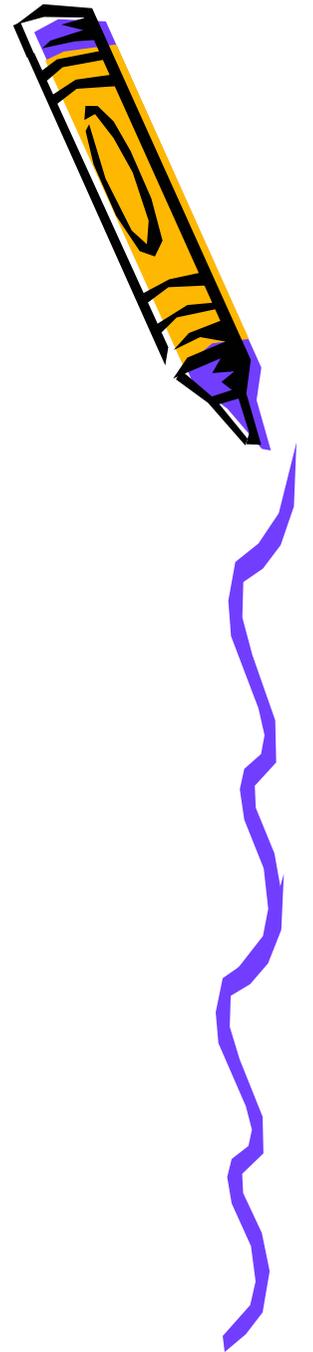
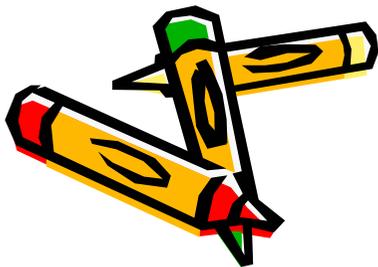
- 「公正な慣行」に合致
- 「正当な範囲内」
- 自著部分と引用部分との主従関係
- 引用部分の明確な区分
- 出典の明示



リポジトリへの登録

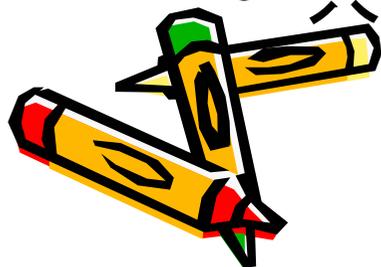
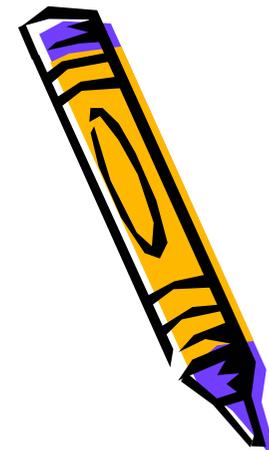
二つの権利の許諾が必要

- 複製権
- 公衆送信権



著作権者の許諾を得ること

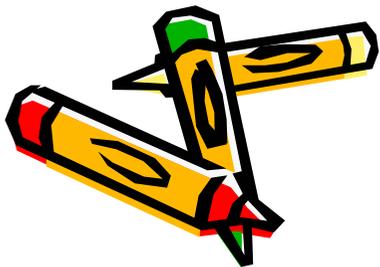
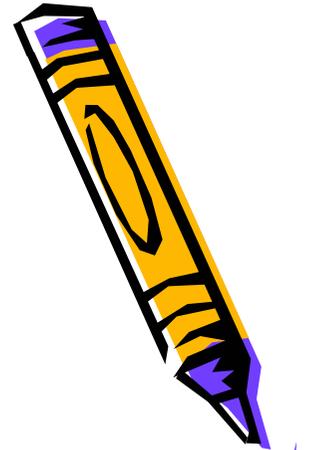
- 著作者＝著作権者（本人）
- 著作権者→学会
- →出版社
- →編集委員会
- →遺族など著作権承継者
- 共同著作者＝全員の合意



学会への著作権の帰属

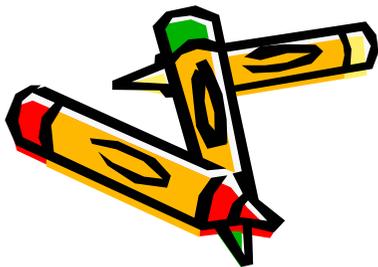
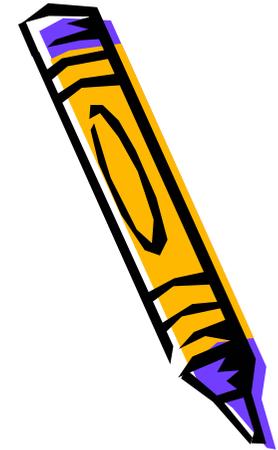
- 人文系85誌 記載33 帰属25
- 社会系87誌 47 35
- 理工系199誌 174 168

(藤田節子:投稿規定分析調査より)



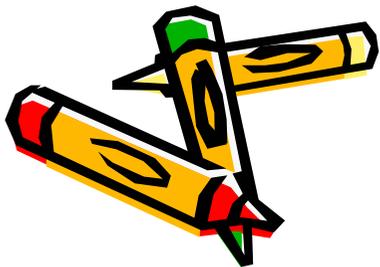
学位論文

- 学位規則(文科省令)で公表義務付け
- 九州大学芸術工学院の場合
研究者の許諾を得たもののみ図書館HP
に載せている(1996年～要旨、本文)
今後は、機関リポジトリに登録予定



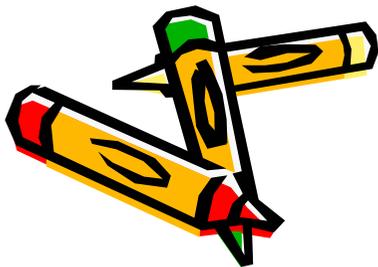
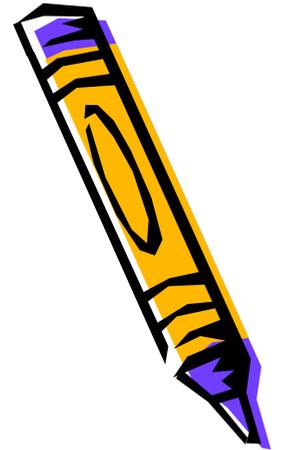
科研費報告書

- 分担者や協力者に配布
- 文科省に提出されたものを国会図書館へ
- 部数は、特に決めていないが、数部ということはない。ただし、調べようがない。国会図書館なり大学図書館で見てくれと言っている
(文科省科研担当者の話)



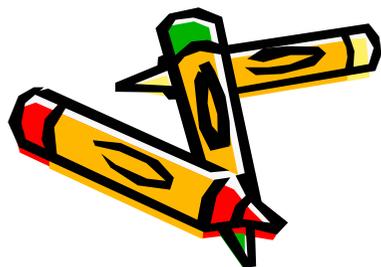
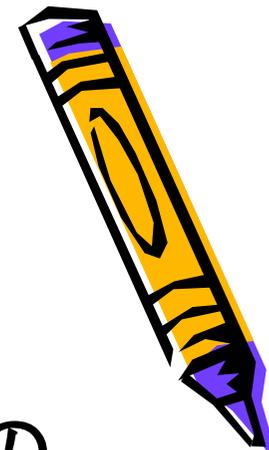
著作権法上の「公表」

- 公衆の要求を満たすことができる相当程度の部数の複製物が・・作成、頒布された場合、発行(公表)されたものとする
- 「公衆送信」の方法で公衆に提示された場合、公表されたものとする



著作権者不明等の場合の 裁定制度

- 著作権者不明等の場合、文化庁長官の裁定を受け、補償金を供託した上で長官が著作権者に代わって許諾を与える
- 過去の実績：36年間で29件（文化庁HP）
- 便法：巻末に「本書をご覧になった方へ」との文言を記す（昭和歌謡大全集）



図書館の責任など

- 個々の論文について著作権侵害があった場合に図書館は責任を負わない
- リポジトリに登録の際、一部誤って欠落して登載した場合には、同一性保持権侵害の責めを、氏名を誤って載せ又は無名で載せた場合には、氏名表示権侵害の責めを図書館は負う

